

地震調査委員会の活動状況

平成21年2月25日

地震調査委員会

平成21年8月25日の第35回政策委員会以降、これまでの地震調査委員会の活動状況は以下の通りである。

1. 地震活動の現状評価の実施

地震調査委員会は、月例の委員会を開催し、全国の地震活動の現状について関係各機関の観測データを分析し、これに基づき総合的な評価をとりまとめ、即日これを公表している。また、被害地震等の発生の際にも臨時の委員会を開催し、地震活動の今後の推移等の総合的な評価を即日公表している。

昨年9月11日に十勝沖の地震(M7.1、最大震度5弱)が発生したが、引き続き地震活動によって被害の拡大や住民の不安が高まる可能性がなく、臨時会の開催を必要とするには至らぬものと判断したうえで、月例の委員会において検討を行い、地震活動の特徴や推移に関わる評価等を公表した(別添1)。

2. 地震発生可能性の長期的な観点からの評価の実施

地震調査委員会長期評価部会(部会長:島崎邦彦・東京大学地震研究所教授)は、その下に設置した活断層評価分科会(主査:今泉俊文・東北大学大学院理学研究科教授)、活断層評価手法等検討分科会(主査:部会長兼任)とともに、活断層で起きる地震や海溝型地震の発生可能性の長期的な観点からの評価(長期評価)について、今後の評価手法の高度化や公表方法の改良のために解決すべき課題の検討を進めてきた。

長期評価部会と活断層評価手法等検討分科会は、活断層の調査方法の高度化も視野に入れ、今後の活断層評価手法の高度化に向けた報告書の作成を進めているところである。

また、長期評価部会は平成18年度に実施された追加・補完調査の結果等に基づき、「会津盆地西縁・東縁断層帯の長期評価の一部改訂」、「宇部沖断層群(周防灘断層群)の長期評価」を公表した。

さらに、昨年5月8日に発生した茨城県沖の地震(M7.0)が、想定されていた茨城県沖のプレート間地震であると地震調査委員会で評価されたことを受けて、茨城県沖の地震の長期評価について見直しを進めており、茨城県沖の地震を含めた「三陸沖から房総沖にかけての地震活動についての長期評価の一部改訂」について3月に公表予定である。

3. 活断層で発生する地震、海溝型地震を対象とした強震動評価の推進

地震調査委員会強震動評価部会（部会長：入倉孝次郎・愛知工業大学客員教授）は、その下に設置した強震動予測手法検討分科会（主査：部会長兼任）、地下構造モデル検討分科会（主査：瀨藤一起・東京大学地震研究所教授）とともに、特定の活断層で発生する地震または海溝型地震による強震動（強い揺れの状況）を予測する手法の検討や同手法を用いた強震動予測（評価）、強震動計算に用いる海溝型地震や主要活断層帯で発生する地震の震源断層モデルと地下構造モデルの構築に取り組んでいる。現在は、地震動予測地図の高度化に向けて、全国地震動予測地図作成のための震源断層モデル、地下構造モデルの作成を順次進めている。また、想定される東海地震・東南海地震、宮城県沖地震を対象に、長周期地震動予測手法の確立をめざし、震源断層モデル作成、地下構造モデル構築の議論も進めている。

4. 長期評価、強震動予測等を統合した地震動予測地図の作成

「全国を概観した地震動予測地図報告書」（平成17年3月公表）において、同地図の内容を適切な時期に見直していくこととしており、主に両部会にまたがる事項の検討のため、両部会の下に地震動予測地図高度化ワーキンググループ（主査：翠川三郎・東京工業大学大学院総合理工学研究科教授）を設置している。

現在、地震動予測地図の改良と高度化のための手法について、政策委員会等での審議を参考に、高精度化・高度利用という観点で審議を進めてきた。平成21年度初頭頃の公表を目指し、全国地震動予測地図の作成、および、報告書及びその概要版の作成のための議論を行っている。

表1 最近の地震調査委員会の開催状況と公表

年 月 日	通算回数	
平成20年 9月12日	188回	2008年8月の地震活動の評価
10月10日	189回	2008年9月の地震活動の評価
11月10日	190回	2008年10月の地震活動の評価
12月 8日	191回	2008年11月の地震活動の評価
平成21年 1月 9日	192回	2008年12月の地震活動の評価
2月 9日	193回	2009年1月の地震活動の評価

表2 最近の地震調査委員会長期評価部会・強震動評価部会関連の公表状況

公表年月日	公表件名
平成20年 9月24日	会津盆地西縁・東縁断層帯の長期評価の一部改訂について
11月17日	宇部沖断層群（周防灘断層群）の長期評価について

2008年9月の地震活動の評価 (十勝沖の地震の部分のみ抜粋)

- 9月11日09時20分頃に十勝沖でM7.1の地震が発生した。発震機構は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。
 - えりもで0.5m、浦河で0.2mなど、北海道と東北地方の太平洋沿岸でこの地震による津波を観測した。
 - 北海道日高地方及び十勝地方の南部を中心とする地域で、この地震に伴う小さな地殻変動を観測した。
 - 地震活動は本震－余震型で推移している。10月9日までの最大の余震は9月11日09時32分頃に発生したM5.7の地震で、余震活動は全体的に減衰しつつある。
 - GPS観測結果から推定される今回の地震の断層モデルは北北東－南南西方向に延び、西北西方向に傾き下がる低角の逆断層であった。
 - 今回の地震は、平成15年(2003年)十勝沖地震の余震域で発生した。